○ネコノチチの再発見（籾山泰一）Yasuichi MOMIYAMA: A new locality of *Rhamnella franguloides*

ネコノチチ *Rhamnella franguloides* Weberbauer が，相州戸塚の在に野生しているということを，久内先生からうかがつて，さがしに行つたが見つからずに引返した。それから 30 年，そのネコノチチが，昨年の秋，採集された。横浜におすまいの長谷川義人さんが，芹ヶ谷というところで見出されたのであつた。その標本を，偶然，長谷川さんに見せていただいたのは，さる採集会の日で，その日，久内先生も御一緒だつたので，話は，たちまち，むかしに帰つた。長谷川さんの標本には，黄色に熟した実が，累々とついていた。ことし，6 月末のある日，かねて，おねがいしておいた長谷川さんに案内していただいて，その場所にゆき，花を採つた。そこは，久内先生にうかがったところに相違なく，バスを降りたあたりは，わたくしにも，見覚えがあつた。芹が谷は，武相の国境いに近く，もとは相州鎌倉郡永野村といつたが，いまは，横浜市南区下永谷町の字になつている。横浜市といつても，昔ながらの，ひなびたところで，低い丘陵に入りこんだ，せまい谷間である。その谷間に北面するロームの崖に，ネコノチチは生えている。バスを降りると，ほんのひとあしで，すぐに谷の入口だが，その入口の，とっつきの崖に，油緑を帯びた，特異な色の葉を茂らせて，離れたところからも，すぐにそれとわかるのが，その木であつた。その崖には 7-8 本の木が見られたが，それから上みに，なお二箇処，3 本と 2 本と都合 5 本の木が残つている。ここも，北向きの崖で，その裾を洗う小さな流れの上に，ネコノチチは，のびのびと枝をさしのべていて，流れ越しに，楽々と，その枝を採ることができた。それにしても，どうして，こんなところに，ネコノチチがあるのだろう。倉田悟氏の御教えによると，ネコノチチの産地は，美濃あたりが東限ではないかといい，房州の清澄山にあるというのは，演習林で植えたものの残りであろうという。演習林では，もと，清澄山にいろんな，有用無用の木を植えたばかりでなく，南の方の羊歯まで植えたらしいというから，採集家は御用心肝要であろう。芹が谷のネコノチチも，意想外な産地で，新しい，ロームの崖に生えているのも，いぶかしいけれど，こんな木を植えることもないだろうから，やはり，野生としておくよりしかたがない。こんなひらけたところに，こんな木が残つているのは，その木が，切りたつた崖に生えていて，ぢやまにならないのと，裾の流れが，崖を隔てて，おのづから，それを保護しているからで，崖の上は，もうすぐに，畠地なのであつた。ともあれ，この残された何本かの木が，切られてしまわないように，どうか，いつまでも，そつとしておいてもらいたいものである。わたくしたちは，それから，丘を越えて国道へ出たが，ちょつとした山の蔭で，クサレダマを見出したりした。横浜市内にも，まだ，こんなものが残つているのかと，やがて失われてゆくものへ，惜別のこころを寄せながら，程が谷まであるいた。（資源科学研究所）